

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

設立財団ニュースレター

Vol. 12

2017年7月31日発行

■ 特別寄稿 専門委員の横山真弓先生より、ご寄稿いただきました

求められる野生動物管理の人材育成 ～地方自治体のケース～

兵庫県立大学教授／森林動物研究センター研究部長 横山 真弓

野生動物と人との軋轢は収束するどころか増加の一途をたどっています。シカやイノシシだけでなくクマ類も各地域で増加傾向がみられています。野生動物をはぐくむことができる日本の自然環境の力強い回復は、本来喜ぶべきことでもあります。憂うべきは、野生動物の被害や出没に適切に対峙することができなくなった我々現代人と日本社会そのものではないかと思えます。

対応力を取り戻す第一歩は、行政システムの中に野生動物管理を適切に組み込むことです。かつて野生動物が極端に減少した日本では、長い間行政システムの中から野生動物に対応する仕組みは欠落していました。野生動物管理にかかわる業務といえば、1990年代までは、狩猟や有害捕獲にかかわる手続きや被害対策のための柵設置補助金の執行が中心だったことから、単なる事務手続きにとどまっていたといえるでしょう。現在では、法律改正や特措法施行に伴う予算規模の拡充が進み、多様な業務が大量に発生しています。また市街地への出没など行政官が現場に急行する案件も増えています。都道府

県、市町村では、林業職員、農業職員、事務職員などが中心となってこれらの業務にあたっていますが、その多くは着任時には十分な知識や技術がないまま、現場の問題に直面し、負担感も増大しています。

野生動物と人との軋轢を解消していくためには、現場を理解し、法律を理解し、それぞれの地域で今何ができて、次に何を行うべきか、将来どうしていくべきかを判断できる人材が地域ごとに配置されなければ、真の野生動物との共存、被害防止は達成できません。さらに、野生動物が出没する現場では、地域の自然環境の中で何が起きているのかを探り、軋轢を解消するために必要なことを判断し、野生動物管理全体を見渡す力量も求められます。理想的には非常に多くの知識と技術を身に着けた専門官や専門家があたるべきですから、まさに知床大学院構想のような専門職大学院でこうした人材が輩出される必要があると感じています。しかし、人材が不足している今は、そこまでは求められないのも現実です。そこで、可能な方向性としては、少しずつでも役割

分担をしながら、多くの職種や関係者が野生動物と人との軋轢の原因を理解し、行動に移すことができる層を厚くしていくことを、行政システムの中に組み込むことだと考えています。

私が所属する兵庫県の森林動物研究センター（以下、センター）では、様々な人材育成の取り組みを行っています（3ページ図）。一例ではありますが、今後の野生動物管理に必要な行政的仕組みと人材の育成について紹介します。兵庫県では、1980年代後半からシカによる農林業被害が深刻化しましたが、2000年代に対症療法ではなく、適切な野生動物の保全管理を目指すべきとの方針が出され、2007年に中核研究機関と普及の拠点としてセンターが設立されました。研究員6名と新たに創設された森林動物専門員5名が配置されています。研究員は、ニホンジカ、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル、外来生物アライグマの5獣種を中心に生息動向の把握や合意形成に必要な各種調査や分析を担当するほか、野生動物対策に必要な技術開発も行っています。森林動物専門員（以下、専門員）は、研究員が明らかにした兵庫県内の野生動物の生息状況や被害防止に必要な内容を県や市町の担当者、現場対応者に普及する役割を担っています。専門員は、着任後かなりハードな内部研修を受け、2か月後には講師の役割を担い始めます。専門員の主要業務は、自ら現場に駆け付け、被害状況の把握や対策のアドバイスを行うほか、様々な研修会の開催や人材育成

研修の事業を主宰しています。主に行政担当者に向けた研修事業は年間10回程度のべ500人ほどが受講しています。専門員が集落に直接出向く被害対策セミナー会は年間100回、のべ参加者は3000～4000人に上っています。研究員と専門員が行う一般向けのセミナーは、農業大学校、森林大学校での授業やシンポジウムなど、年間30回以上、1000～2000人が受講しており、一般への理解も促しています。そのほか、その時のニーズに応じた研修会を実施しているため、合計では、研究員と専門員で年間200回程度の実施回数で、のべ9000～1万人に対して人材育成を行っていきことになります。このような取り組みは、現在11年目を迎えました。もちろん、導入部分を「聞いて終わり」の場合もありますが、その中からすでにスペシャリストになっている人材も輩出されています。はじめは遅々とした動きでも、毎年1件1件対応することにより、現在では兵庫県全体の対応力が底上げされてきているのを感じています。

これから人口縮小社会を迎えることを想定した中山間地域の行政システムの中に野生動物管理は欠かせないものとなるのは明らかです。持続可能なシステムの運用には、人、モノ、予算をどのように適切に配分していくべきか、どのような教育システムが必要であるのか早急に洗い出し、地域に軸足を置いた人材育成の仕組みづくりは、今、地域社会が最も望んでいるものであると感じています。



横山 真弓（よこやま・まゆみ）

兵庫県立大学・教授 / 森林動物研究センター・研究部長

専門は野生動物保護管理学、栄養生理学。主にニホンジカやツキノワグマなど人との軋轢が問題となっている種を対象に、地域個体群の動態、個体群の健全性の保全、出没の危機管理体制の構築などを研究テーマとしている。現在ではツキノワグマの行動分析と出没抑制、ニホンジカの有効活用などを専門としている。また、人と自然の博物館に在職中より、兵庫県における野生動物保護管理の推進体制の構築など現在の体制整備にも携わってきた。農林水産省の検討委員や他府県の研修会講師、野生動物保護学会の理事などの社会活動を行っている。

著書に『動物たちの反乱』（共著、PHPサイエンスワールド新書）など。

森林動物研究センター人材育成プログラム

県・市町職員等研修

- ・ 新任者研修
- ・ 獣種別研修（シカ・クマ・イノシシ・サル・外来種）
- ・ 防護柵
- ・ 捕獲技術
- ・ 追い払い技術
- ・ 集落環境整備
- ・ 森林動物指導員研修

地域リーダー育成研修

- ・ 県民局と連携し、地域の実情に応じた内容と開催時期
- ・ 年間50～100回

特別課題研修

- ・ 県の重要施策や緊急課題、関連機関からの要請に応じて必要に応じて実施（シカ肉有効活用など）

狩猟者セミナー

- ・ 狩猟免許更新講習（3年に1回）時にワイルドライフマネジメントについて1時間の講習を実施

一般県民向けセミナー（含 外部依頼）

森林動物専門員研修

- ・ 新任専門員研修（12項目）（法令・獣種別・被害防除・集落づくり・捕獲技術・調査手法）
- ・ クマ捕獲対応研修
- ・ サル監視員研修
- ・ 射撃実習

■ 知床ネイチャートーク 2017 を開催します！

知床自然大学院大学設立財団業務執行理事の中川 元（元知床博物館長）が、知床はなぜ世界遺産になったか、動物と人との関わり、流氷と生物、知床開拓から世界遺産までの歴史、共存のための取り組みなどを、わかりやすく解説するトークイベントです。下記の日程で、斜里町ウト口の4つのホテルロビーで開催します。

入場無料。申込不要。宿泊者以外の人もご参加できます。

- | | | | | |
|-----|-------|-----|-------------|-----------|
| 第1回 | 8月1日 | (火) | 20:00～21:00 | 知床第一ホテル |
| 第2回 | 8月8日 | (火) | 20:00～21:00 | 知床プリンスホテル |
| 第3回 | 8月22日 | (火) | 20:00～21:00 | 知床グランドホテル |
| 第4回 | 8月30日 | (水) | 20:00～21:00 | ホテル知床 |

知床ネイチャートーク 2017
Shiretoko Nature Talk

知床自然大学院大学設立財団の中川 元（元知床博物館長）が、知床の自然や歴史について、わかりやすく解説するトークイベントです。詳しくは下記URLをご覧ください。知床の魅力を再発見する機会が広がります。

8/1 (火) 20:00～21:00 知床第一ホテル
8/8 (火) 20:00～21:00 知床プリンスホテル
8/22 (火) 20:00～21:00 知床グランドホテル
8/30 (水) 20:00～21:00 ホテル知床

参加費 ▶ 無料
※観覧者以外の方も、自由に参加できます

中川 元
Nakagawa Hajime
知床で40年近く野生動物の調査研究や環境保全に取り組んでまいりました。知床の歴史や文化、自然環境の大切さ、人々の暮らしの関わりを伝える活動を行っています。

主催：公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団
お問い合わせ TEL：0152-20-7770 E-mail：shiretoku@shira.dais.ac.jp

★★ 知床ネイチャーキャンパス 2017 を開催します ★★

世界自然遺産にも登録された知床は、野生生物の科学的保護管理の先進地です。知床ネイチャーキャンパスは、この地を舞台に、この分野の第一線で活躍する先生方が講師を務め、保護管理の実際に関する講義、野外実習を体験する教育プログラムです。2回目の開催となる2017年は、森林や植生、河川、シマフクロウなどをテーマに、自然再生や自然復元を学びます。

この分野のエキスパートを目指す学生や大学院生の皆さん、森林管理や自然公園・鳥獣行政を担う現職の皆さん、環境保全や自然再生活動を行う民間団体の皆さん、自然との共生をベースに地域振興を考える皆さん、野生生物との共存を学び共に考える濃密なプログラムを体験してみませんか。

知床ネイチャーキャンパス 2017

- **テーマ**：「知床で学ぼう 自然再生・自然復元」
- **日時**：2017年9月30日（土）～10月2日（月）
- **会場**：ホテル知床・研修センター（北海道斜里郡斜里町ウトロ香川37）
- **実習**：知床世界自然遺産地域と周辺の野外フィールド
- **主催**：公益財団法人知床自然大学院大学設立財団
- **対象**：学部学生、大学院生、社会人（自然関係職員や一般社会人）、知床自然大学院大学設立財団の賛助会員
- **定員**：20名（定員になり次第、募集締め切りとなります）
- **受講料**：2,000円（資料代と保険料）
- **参加費**：学生12,000円、社会人16,000円
（3泊分の宿泊費と食費、交流会費を含みます）
※当日受付でお支払い下さい。
会場までの往復交通費は参加者負担となります。

○ スケジュールとプログラム

[集合と解散] 9月30日（土）12:30 集合、
10月3日（火）朝解散。

[プログラム]

- <1日目> 9月30日、13:00～
開会・オリエンテーション
- 講義1 「自然再生・自然復元の考え方」
- 講義2 「森林再生 - 知床の取り組み」
- 講義3 「シカの管理と森林植生回復」
- 講義4 「ダム改良による河川生態系の復元」



**Shiretoko
Nature Campus 2017**
知床ネイチャーキャンパス 2017 を開催します！

9.30(土) ~ 10.2(月)

会場：ホテル知床・研修センター（北海道斜里郡斜里町37）
実習フィールド：斜里町ウトロ及び世界自然遺産地域周辺

知床ネイチャーキャンパスは、科学的な野生生物保護管理の先進地である北海道・知床を舞台に、この分野の第一線で活躍する大学教授らが講師を務め、講義、野外実習を体験する教育プログラムです。
2回目の開催となる今年度は、森林や植生、河川、シマフクロウなどをテーマに、自然再生や自然復元を学びます。濃密な3日間のプログラムを体験してみませんか。

**今年のテーマは
知床で学ぼう！
自然再生
自然復元**

定員：20名（先着順）
受講料：2,000円（資料代・保険料）
参加費：学生12,000円 社会人16,000円
（3泊分の宿泊費、食費、交流会費を含みます）
※30日は12:30集合、解散は3日朝です。
会場までの往復交通費は各自負担となります。

主催：公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

<2日目> 10月1日

- 実習1 「森林再生の現地実習 - 知床 100 平方メートル運動地 -」
- 実習2 「河川生態系復元の現地実習 - 知床世界遺産地域内河川 -」
- 講義5 「シマフクロウの現状と生息地復元のターゲット」
- 講義6 「森林再生・生態系復元のマネジメント」
- 講義7 「成果を上げる自然再生活動のプロセスと知識の活用」

<3日目> 10月2日

- 実習3 テーマ別実習
- ワークショップ「森林再生・生態系復元に関する発表とディスカッション」
- オープンキャンパス 「地元住民と受講生・講師による意見交換と交流会」

○ 講 師

- 中村 太士 (講義1・4) 北海道大学大学院農学研究院教授・
知床世界自然遺産地域科学委員会委員 (河川工作物AP座長)
- 石川 幸男 (講義2) 弘前大学白神自然環境研究所教授・知床世界自然遺産地域科学委員会委員・
知床 100 平方メートル運動地森林再生専門委員会委員長
- 梶 光一 (講義3) 東京農工大学大学院農学研究院教授・知床世界自然遺産地域科学委員会委員・
「野生生物と社会」学会会長
- 竹中 健 (講義5) シマフクロウ環境研究会代表・環境省シマフクロウ保護増殖検討会委員
- 増田 泰 (講義6) 公益財団法人知床財団事務局長・主任研究員
- 敷田 麻実 (講義7) 北陸先端科学技術大学院大学知識マネジメント領域教授・
知床世界自然遺産地域科学委員会委員 (適正利用・エコツーリズムWG座長)

※各講師には実習・ワークショップの指導もいただきます。

○ 受講申し込み

受講希望者は下記 e-mail アドレスか FAX に、氏名・所属・連絡先 (アドレスと電話番号) をお送り下さい。
改めて事務局よりお申し込みフォームを送ります。

e-mail : sizendaigaku@wine.plala.or.jp FAX : 0152-26-7773

○ お問い合わせ

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28 番地 10

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

TEL : 0152-26-7770 (または 090-4871-4591) FAX : 0152-26-7773

e-mail : sizendaigaku@wine.plala.or.jp Web : <http://shiretoko-u.jp>

評議員会・理事会報告

2017年4～7月に開催した評議員会・理事会について報告いたします。

平成 29 年度第 1 回評議員会

(定款第 20 条に基づく「決議の省略」による)

理事会の決議があったと見なされた日：2017 年 6 月 15 日

決議事項

第 1 号議案 「平成 28 年度 (2016 年度) 事業報告書」承認の件

第 2 号議案 「平成 28 年度 (2016 年度) 決算報告書」承認の件

について、書面による同意の意思表示にて可決しました。

平成 29 年度第 1 回理事会

(定款第 36 条に基づく「決議の省略」による)

理事会の決議があったと見なされた日：2017 年 5 月 15 日

決議事項

第 1 号議案 「平成 28 年度 (2016 年度) 事業報告書」承認の件

第 2 号議案 「平成 28 年度 (2016 年度) 決算報告書」承認の件

第 3 号議案 平成 29 年度第 1 回評議員会 (定時) 招集の件

について、書面による同意の意思表示にて可決しました。

平成 29 年度第 2 回理事会

開催日時：2017 年 6 月 11 日 (日) 午後 1 時より

開催場所：斜里町ゆめホール知床・会議室 2

- 報告事項
1. 代表理事・業務執行理事の業務執行報告
 2. 賛助会員の加入状況及び募金の状況について
 3. 活動助成金の申請について
 4. その他の業務報告

- 協議事項
1. 今年度の事業展開について
 2. 賛助会員拡大の取り組みについて
 3. その他の協議事項



■□■ 平成 28 年度事業報告 ■□■

平成 28 年度は公益財団法人認定 3 年目となり、積極的な公益目的事業の取り組みを行うと共に、公益法人制度に則った正確な組織運営に努めました。公益事業では、野生生物との共存策を担うエキスパートを養成する高等教育研究機関の実現へ向け、目指す教育内容や事業をより「見える形」で行うことを心がけました。教育プログラムや教育課程、教育体制などは、計画策定専門委員会での議論をもとに検討を継続し、広報活動として「知床ネイチャーキャンパス 2016」を開催。ホームページをリニューアルし、よりわかりやすい構成と内容の充実を図りました。また地元自治体への報告や意見交換の場を積極的に持ったほか、賛助会員や支援者・支援企業、環境関連諸団体や学協会等との連携を深め、賛助会員の拡大と寄付金要請活動に積極的に取り組みました。

Ⅰ 公益事業

1 知床自然大学院大学設立準備事業

(1) 知床自然大学院大学計画の策定と専門委員会の開催

平成 25 年度に発足した計画策定専門委員会の第 5 回、第 6 回を開催しました。

第 5 回では、前年度までの計画策定作業についての評価と意見交換を行い、教育機関の独自開設に加え、連携による設立、共同利用機関など幅広い形態の可能性や、基礎となるプログラム策定と実践について検討しました。

第 6 回では、「知床ネイチャーキャンパス 2016」の結果報告と評価、プログラムや教育課程、教育体制の検討と今後のスケジュール、次年度のネイチャーキャンパス開催内容などについて検討しました。

第 5 回計画策定専門委員会

日時：平成 28 年 6 月 7 日（火） 午後 1 時～4 時

場所：TKP 品川カンファレンスセンター（東京都港区）

参加者：委員 8 名、オブザーバー 1 名、事務局 2 名

第 6 回計画策定専門委員会

日時：平成 29 年 2 月 13 日（月） 午前 9 時 30 分～午後 1 時

場所：TKP 品川カンファレンスセンター（東京都港区）

参加者：委員 7 名、オブザーバー 1 名、事務局 2 名



<知床自然大学院大学設立財団計画策定専門委員>

委員長	梶 光一	東京農工大学大学院教授・財団理事	委員	曾野 知雄	レスコム北海道・OWL VISION 代表
副委員長	中村太士	北海道大学大学院農学研究院教授	委員	中川 元	元知床博物館館長・財団業務執行理事
委員	小林万里	東京農業大学生物産学学部教授	委員	松田裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
委員	桜井泰憲	北海道大学名誉教授	委員	横山真弓	兵庫県立大学自然環境科学研究所教授
委員	敷田麻実	北陸先端科学技術大学院大学教授	委員	吉田剛司	酪農学園大学環境共生学類教授
委員	鈴木正嗣	岐阜大学応用生物科学部教授	委員	吉田正人	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
オブザーバー	大泰司紀之	北海道大学名誉教授・財団顧問	オブザーバー	渡辺綱男	元環境省自然環境局長・財団顧問
オブザーバー	田中俊次	東京農業大学名誉教授・財団代表理事			

(2) 地元自治体・地元環境団体との 連携協力体制の構築

斜里町長はじめ、地元自治体や公益財団法人知床財団へ、活動報告や意見交換を行うとともに、知床ユネスコ協会、認定 NPO 法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」など、環境・教育・文化関係の地元団体に情報提供や意見交換を行い、理解、協力を求めました。

(3) 設立資金確保の取り組み

今後の方針として、幅広い教育機関の形態も考慮して計画策定を進めると共に、よりわかりやすい広報活動で支援の拡大を訴求することとしました。「知床ネイチャーキャンパス 2016」等の広報活動に並行して法人・団体・個人の賛助会員拡大に努めた結果、法人や個人の新規加入、一般寄附金の増加など財団活動への支援が前年度を上回りましたが、設立資金確保についてはさらなる要請行動の展開が課題となりました。

2 普及啓発・広報事業及び調査研究事業

(1) 「知床ネイチャーキャンパス 2016」の開催

<開催概要>

日時：平成 28 年 10 月 9 日～10 日

会場：斜里町ウトロ及び知床国立公園内

講師：桜井泰憲、鈴木正嗣、梶光一、中村太士、敷田麻実、増田泰

受講者：22 名

テーマは知床の自然の特徴と世界遺産登録の経過、森林の保全とエゾシカの管理、野生動物保護管理の現状と課題、エコツーリズムの実際、河川生態系の再生など多岐にわたり、ワークショップでまとめと意見交換を行いました。実習フィールドは知床 100 m²運動地、知床五湖、岩尾別川流域など世界遺産エリア内で、さまざまな保全活動が行われている場所としました。講義や実習の記録は、ニュースレターやホームページ、SNS で広報しました。



(2) 会報誌「設立財団ニュースレター」の発行

当事業年度は会報誌を 3 回発行し、賛助会員や関係者に送付するとともに、ホームページに PDF 版を掲載しました。

<第 9 号> 平成 28 年 8 月 10 日発行 16p
今後の方針について（代表理事）、平成 27 年度事業報告、知床ネイチャーキャンパスの開催案内ほか

<第 10 号> 平成 28 年 12 月 6 日発行 8p
知床ネイチャーキャンパス 2016 の開催結果報告、おすすめ図書の紹介ほか

<第 11 号> 平成 29 年 3 月 31 日発行 10p
野生生物管理のスペシャリスト育成を目指して（代表理事）、おすすめ図書の紹介ほか

(3) ネットを活用した広報活動

<ホームページのリニューアルと運用>

構成・デザインのリニューアルと内容の拡充を目的に全面的な更新を行い、10月から新規の運用を開始しました。「野生生物との共存」「専門家の必要性」「育成する人材像」等について写真を使ったわかりやすい解説を加え、全体を親しみやすいデザイン、理解しやすい構成としました。

知床自然大学院設立財団
ホームページ

<http://www.shiretoko-u.jp>

<SNSの活用>

Facebookを継続運用し、幅広い情報提供とブログ記事への誘導を行いました。また、オンライン寄付サイト「GiveOne」の「寄付月間」イベントや、ソーシャルグッドプラットフォーム「gooddo」への参加をPR。Facebookのフォロワーや閲覧者は順調に伸びており、賛助会員や支援者らとの交流や情報交換の場となりました。

知床自然大学院設立財団
Facebook

<https://www.facebook.com/shiretoko.u/>

(4) 報道機関への情報提供と取材対応

北海道内の各新聞社やテレビ局等への情報提供や取材対応を行い、財団の活動状況の周知を図るとともに、理念・目的の広報に努めました。特に知床ネイチャーキャンパスについては、計画の段階から各社の取材を受け、開催中は数社のテレビ・新聞に密着取材をいただきました。これらの報道を通して今後の活動方針の広報と、教育プログラムの実際や目指す人材育成について広範な理解を得ることができました。



(5) パンフレット、行事案内チラシの活用

財団紹介パンフレットと専門家養成解説パンフレットを引き続き活用し、各種会合や行事開催の場で賛助会員拡大や支援者拡大に努めました。知床ネイチャーキャンパスの開催案内チラシを作成し、道内道外の大学や大学教員、関係行政機関等に送付するとともに、斜里・羅臼両町の住民には新聞折り込みとして配布し、事業への参加を呼びかけました。

(6) 調査研究事業

昨年度に引き続き、野生生物保護管理に関する論文や報告書の収集、人材養成に関する論文・資料等の文献調査、関係行政機関や研究機関の公開資料・文献の収集を行いました。各大学・大学院の教育課程やカリキュラム事例の収集と検討を行い、大学院計画策定や教育プログラムの作成に活用しました。また、関係学会や研究会等に参加し、ワイルドマネジメントに関する国内外の動向や先進的事例、人材養成に関する情報収集を行いました。

II 理事会及び役員等に関する報告

1 理事会

<平成 28 年度第 1 回理事会>

(定款第 36 条に基づく「決議の省略」による)

理事会の決議があったと見なされた日：2016 年 5 月 16 日

決議事項

第 1 号議案 「平成 27 年度 (2015 年度) 事業報告書 (案)」承認の件

第 2 号議案 「平成 27 年度 (2015 年度) 決算報告書 (案)」承認の件

第 3 号議案 平成 27 年度第 1 回評議員会 (定時) 招集の件

以上、原案通り可決しました。

報告事項

1. 賛助会員の加入状況及び募金に関する報告
2. その他の業務執行報告

<平成 28 年度第 2 回理事会>

開催日時：2016 年 6 月 12 日 (日) 午後 2 時より

開催場所：斜里町ゆめホール知床・会議室 2

決議事項 第 1 号議案 代表理事及び業務執行理事の選任の件

代表理事に田中理事を、

業務執行理事に上野・中川両理事を選任した。

報告事項 1. 賛助会員の加入状況及び募金の状況について

2. その他の業務執行報告

協議事項 1. 今年度の事業展開について



<平成 28 年度第 3 回理事会>

開催日時：2017 年 3 月 12 日 (日) 午後 1 時より

開催場所：斜里町産業会館・1 階会議室

決議事項 第 1 号議案 「平成 29 年度 (2017 年度) 事業計画 (案)」承認の件

第 2 号議案 「平成 29 年度 (2017 年度) 収支予算 (案)」承認の件

(資金調達および設備投資の見込みを含む)

第 3 号議案 「公印管理規定」制定の件

第 4 号議案 「文書保存・管理規定」制定の件

以上、原案通り可決しました。

報告事項 1. 「知床ネイチャーキャンパス 2016」の開催報告

2. 計画策定専門委員会の開催結果概要報告

3. 賛助会員の加入状況及び募金の状況について

4. 活動助成金の申請について

5. 代表理事・業務執行理事の業務執行報告

1-2 役員等に関する事項 2017 年（平成 29 年）3 月 31 日現在

<役員>

役職	氏名	就任年月日	担当職務	略歴
理事	田中俊次	2013年1月22日	代表理事	東京農業大学名誉教授
理事	中川 元	2013年1月22日	業務執行理事	元知床博物館館長
理事	上野雅樹	2013年1月22日	業務執行理事	知床ユネスコ協会理事
理事	家村充尋	2013年1月22日		知床ユネスコ協会会員
理事	石川 勝	2014年6月8日		羅臼町前教育委員長
理事	梶 光一	2013年1月22日		東京農工大学教授・日本哺乳学会前理事長
理事	金澤裕司	2013年1月22日		羅臼町教育委員会自然環境教育主幹
理事	齋藤卓也	2013年1月22日		公益財団法人北海道環境財団評議員
理事	鈴木幸夫	2013年1月22日		会社員・日本聖公会東京教区監事
理事	滝澤大徳	2014年6月8日		知床山考舎代表
理事	中田尊徳	2016年6月12日		会社社長・斜里青年会議所元理事長
理事	前川和広	2014年6月8日		北海道生活協同組合連合会元理事
理事	三宅雅久	2014年6月8日		北海道ふるさと会連合会理事
監事	木村耕一郎	2013年1月22日		斜里町議会議長
監事	廣川昭廣	2013年1月22日		税理士

※役員報酬を支給している常勤役員は 1 名。

役員には当法人の事業・業務に関する必要な経費を、本人からの申請に基づき支給している。

<顧問及び相談役>

	氏名	就任年月日	略歴
顧問	大泰司紀之	2013年1月22日	北海道大学名誉教授
顧問	松浦晃一郎	2013年1月22日	公益財団法人日仏会館理事長 前ユネスコ事務局長（第8代）
顧問	渡辺綱男	2013年1月22日	自然環境研究センター上席研究員 国連大学シニアプログラムコーディネーター 元環境省自然環境局長
相談役	丹保憲仁	2013年1月22日	北海道立総合研究機構理事長 北海道大学名誉教授（第15代総長）

※理事会の諮問に応じて当法人の事業・業務に対して指導・助言などのご支援をいただいている。

※報酬は支給していないが、代表理事から委任された当法人の事業・業務に関する必要な経費を支給する場合がある。

2 評議員会

<平成 28 年度第 1 回評議員会（定時）>

開催日時：2016 年 6 月 12 日（日）午後 1 時より

開催場所：斜里町ゆめホール知床 会議室 2

決議事項 第 1 号議案 「平成 27 年度（2015 年度）事業報告書（案）」承認の件

第 2 号議案 「平成 27 年度（2015 年度）決算報告書（案）」承認の件

第 3 号議案 評議員選任の件

第 4 号議案 理事・監事選任の件

以上について審議し可決しました。

報告事項 1. 賛助会員の加入状況及び募金に関する報告

2. その他の業務執行報告

2-2 評議員に関する事項 2017 年（平成 29 年）3 月 31 日現在

<評議員>

役職	氏名	就任年月日	略歴
評議員	石 弘之	2013年1月22日	環境問題研究家
評議員	上野洋司	2013年1月22日	知床斜里町観光協会会長
評議員	午来 昌	2013年1月22日	元斜里町長
評議員	鈴木眞吾	2013年1月22日	元斜里町教育委員長
評議員	土橋利文	2013年1月22日	斜里町商工会会長
評議員	深山和彦	2013年1月22日	ウトロ漁業協同組合代表理事組合長

※報酬を支給している評議員はないが、当法人の事業・業務に関する必要な経費を、本人からの申請に基づき支給している。

III 法人の運営状況について

1 事務局の状況

常勤の業務執行理事 1 名と非常勤の事務局長（理事） 1 名、常勤の事務局員 1 名による運営体制としています。また、必要に応じて代表理事及び業務執行理事が事務局における決裁業務を職掌しているほか、会計処理や決算においては理事 2 名が在宅で事務局をサポートしています。会計処理の正確性と効率化を図るため、平成 26 年度より会計ソフトを導入しました。

2 税額控除団体の認定

平成 26 年 8 月 8 日、当法人は内閣総理大臣から「税額控除に係る証明」を受けました。これに伴い寄付金控除の選択肢が拡大し、従来の「所得控除」に加えて新たに「税額控除」制度が適用されることになりました。

3 ファンドレイジングの状況（賛助会員と寄附金について）

	種別	予算（件数）	予算（金額）	実績（件数）	実績（金額）
賛助会員	個人	200	1,000,000	111	555,000
	団体	10	100,000	5	50,000
	法人・法人特別	70	3,000,000	40	1,760,000
	小計	280	4,100,000	156	2,365,000
寄附金		---	3,000,000	31	2,277,091
	合計	---	12,100,000	187	4,642,091
大学院設立資金	目標額	---	500,000,000	---	12,780
				(累計)	1,478,600

(金額単位：円)

賛助会員募集と寄付金要請は、役員による訪問要請行動のほか、事務局からの文書やパンフレット送付による案内を随時行いました。また、新聞社やテレビ局取材の中で当財団の活動紹介と合わせて支援要請を行いました。パンフレットやホームページの活用、SNS を利用した広報活動、主催事業の参加者や関係イベント会場等でのパンフレット配布を行ったほか、地元の集客施設等にも置いていただきました。

これらにより、法人会員は前年より 6 件増え、金額で 24% の増となりました。団体会員は 2 件の増、個人会員は 7 件の増となりました。一般寄付金は 31 件で金額は昨年度より 16% 増となりました。しかしながら、賛助会費と寄付金の合計額は予算額（目標額）の 38% に留まり、次年度への課題となっています。

大学院設立資金の確保については、ファンドレイジング方法の再検討を行い、活動実績や教育計画の広報に重点を置いたことから充分な要請活動は行えず、小口寄付のみとなりました。

また、オンライン寄付サイト「GiveOne」やソーシャルグッドプラットフォーム「gooddo」に参加し、ネットによる支援システムからの寄付金受け入れも行いました。

次ページより、平成 28 年度決算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書）を掲載しました。

貸借対照表

平成29(2017)年3月31日現在

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	157,287	963,135	△ 805,848
未収金	1,120	940	180
仮払金	17,650	36,706	△ 19,056
流動資産合計	176,057	1,000,781	△ 824,724
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
大学院設立資金(定期預金)	1,398,789	1,386,009	12,780
大学設立資金(その他)	80,000	80,000	0
特定資産合計	1,478,789	1,466,009	12,780
(3) その他固定資産			
保証金	60,000	60,000	0
ソフトウェア	342,306	342,306	0
減価償却累計額	△ 182,566	△ 114,106	△ 68,460
その他固定資産合計	219,740	288,200	△ 68,460
固定資産合計	4,698,529	4,754,209	△ 55,680
資産合計	4,874,586	5,754,990	△ 880,404
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	6,630	5,400	1,230
未払費用	14,924	14,699	225
前受金	35,000	25,000	10,000
預り金	15,458	15,223	235
未払法人税等	20,000	20,000	0
流動負債合計	92,012	80,322	11,690
負債合計	92,012	80,322	11,690
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	1,478,600	1,465,950	12,650
受取利子	189	59	130
指定正味財産合計	4,478,789	4,466,009	12,780
(うち基本財産への充当額)	3,000,000	3,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	1,478,789	1,466,009	12,780
2. 一般正味財産	303,785	1,208,659	△ 904,874
正味財産合計	4,782,574	5,674,668	△ 892,094
負債及び正味財産合計	4,874,586	5,754,990	△ 880,404

正味財産増減計算書

平成28(2016)年4月1日から平成29(2017)年3月31日まで

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	255	637	△ 382
受取会費	2,365,000	1,965,000	400,000
賛助会費(個人)	555,000	515,000	40,000
賛助会費(団体)	50,000	30,000	20,000
賛助会費(法人)	1,760,000	1,420,000	340,000
受取寄付金	2,277,091	1,967,915	309,176
一般寄附金	2,277,091	1,967,915	309,176
雑収益	12	361	△ 349
普通預金受取利息	12	361	△ 349
経常収益計	4,642,358	3,933,913	708,445
(2) 経常費用			
事業費	4,259,517	3,800,182	459,335
役員報酬	630,000	630,000	0
給与手当	954,000	954,000	0
福利厚生費	143,330	142,591	739
会議費	16,720	26,342	△ 9,622
旅費交通費	1,267,423	934,782	332,641
通信運搬費	217,348	253,928	△ 36,580
消耗品費	17,555	98,934	△ 81,379
印刷製本費	221,582	250,606	△ 29,024
水道光熱費	54,130	72,041	△ 17,911
事務所賃借料	208,688	207,000	1,688
委託費	32,400	4,050	28,350
会場賃借料	166,520	3,580	162,940
リース料	181,818	181,818	0
保険料	3,286		
諸謝金	60,000	0	60,000
広告宣伝費	55,595	0	55,595
支払手数料	13,122	16,524	△ 3,402
新聞図書費	0	13,986	△ 13,986
支払負担金	10,000	10,000	0
雑費	6,000	0	6,000
管理費	1,287,715	1,460,146	△ 172,431
役員報酬	210,000	210,000	0
給与手当	318,000	318,000	0
福利厚生費	47,776	47,530	246
会議費	2,247	2,918	△ 671
旅費交通費	367,324	501,100	△ 133,776
通信運搬費	32,913	29,366	3,547
消耗品費	3,503	32,978	△ 29,475
印刷製本費	58,595	59,194	△ 599
水道光熱費	18,043	24,014	△ 5,971
事務所賃借料	69,562	69,000	562
会場賃借料	780	1,350	△ 570
委託費	0	1,680	△ 1,680
リース料	60,606	60,606	0
減価償却費	68,460	68,460	0
支払手数料	8,206	5,508	2,698
新聞図書費	0	3,510	△ 3,510
租税公課	21,700	20,800	900
雑費	0	4,132	△ 4,132
経常費用計	5,547,232	5,260,328	286,904
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 904,874	△ 1,326,415	421,541
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 904,874	△ 1,326,415	421,541
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 904,874	△ 1,326,415	421,541
一般正味財産期首残高	1,208,659	2,535,074	△ 1,326,415
一般正味財産期末残高	303,785	1,208,659	△ 904,874
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	12,650	1,196,650	△ 1,184,000
受取寄付金(大学設立資金)	12,650	1,196,650	△ 1,184,000
特定資産運用益	130	47	83
大学院設立資金受取利息	130	47	83
当期指定正味財産増減額	12,780	1,196,697	△ 1,183,917
指定正味財産期首残高	4,466,009	3,269,312	1,196,697
指定正味財産期末残高	4,478,789	4,466,009	12,780
III 正味財産期末残高	4,782,574	5,674,668	△ 892,094

知床自然大学院大学設立財団は、 活動を支援して下さる **賛助会員、寄附金** を募集しています

■賛助会員とは

この財団の目的に賛同する個人・団体・法人が会費を通じて支援するものです。

■会員の年会費

個人会員：5,000円
団体会員：10,000円
法人会員：20,000円
法人特別会員：100,000円
※年度ごとの納入となります。

■加入申込み方法

「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます（入金 は右記口座への入金でも受付しています）



知床自然大学院大学設立財団ホームページ
賛助会員・寄附金募集ページ

■賛助会員の特典

当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報を優先的に送ります。

■寄附金について

寄附金も随時募集しています。
賛助会員加入同様にお申し込みください。

■主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号 19940 (普) 10138691
(※他の金融機関から 店名九九八 番号 1013869)
北洋銀行斜里支店 店番 452 (普) 3119440
北海道銀行斜里支店 店番 904 (普) 0530326
網走信金斜里支店 店番 003 (普) 0284957
大地みらい信金羅臼支店 店番 003 (普) 1072873

オンライン寄付サイト「Give One」
ソーシャルグッドプラットフォーム「gooddo」からもご支援いただけます



設立財団ニュースレター 第12号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団
〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10
TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773 E-mail sizendaigaku@wine.plala.or.jp
Web <http://www.shiretoko-u.jp>

発行日 2017年7月31日